

## 令和3年度第2回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和4年2月2日（水） 9:30～11:30

場所：高知城ホール4F 多目的ホール

出席：委員10人中、10名が出席

- 議事：（1）第4期産業振興計画＜観光分野＞の令和4年度の取り組み概要（案）について  
（2）第4期産業振興計画＜観光分野＞の令和4年度の強化ポイント（案）について
- ア 広域観光組織を中心とした周遊・滞在型観光の推進
  - イ 今後の誘客戦略の展開
  - ウ 令和4年度の連携テーマの取り組み

### ※意見交換概要

#### （木下部会員）

- ・路面電車で前回発言したが、「とさぶし」で路面電車特集が組まれている。ダイヤモンドクロッシングへの取り組みは、副会長が発見して以来4年になるが、YouTubeなどで発信して、ようやく知られるようになってきており、アメリカのインフルエンサーなどの外国人からの反響も多い。
- ・路面電車は高知県として外すことのできない観光資源であり、路面電車の1日500円の乗車券を使ったツアーの英語版も3月に完成するので、インバウンドが回復すれば発信していきたい。
- ・3月には地域通訳案内士、全国通訳案内士、広域観光組織などとの懇談会があり、情報交換をすることになっている。この2年間は活動の場がなかったが、せっかく地域通訳案内士という制度があるので、インバウンドが戻ってきたときには、こういう機会を生かしていきたい。
- ・広域観光組織のDMOが3組織、候補が1組織あると聞いているが、それぞれ教えて欲しい。
- ・サステナブルの国際評価指標があると思うが、今後自治体が指標に対してどこまで取り組んで行くのかを県としてどのように考えているのか。

#### （別府地域観光課長）

- ・現在あるDMOは「幡多、東部、仁淀ブルー」であり、候補は、「物部川」で、今年度登録予定となっている。

#### (鈴木観光政策課長)

- ・四国では小豆島町が認証取得していると聞いている。現時点ですぐということではないが、今後は評価指標を意識した取り組みも地域と連携して進めたい。

#### (黒笹部会員)

- ・大きなテーマでサステナブルツーリズムを掲げていると思う。ピンチをチャンスにできるものだと思うので頼りたい気持ちはわかるが、具体的に何がしたいのか分からない。
- ・一言にサステナブルと言っても分かりにくい。地域の人にも分かりやすいガイドラインが必要になるのではないか。具体的なガイドラインを作成すれば、「こういう風になると観光素材になるのか。」というような新たな気づきに繋がるのではないか。
- ・サステナブルという言葉は便利だが、分かりやすい日本語や土佐弁にすることも必要ではないか。
- ・食は大きなキーワードで、高知にとってサステナブルな資源だとは思いますが、今のままではいけない。
- ・磨き上げの一つとして、オーベルジュであったり、その地域でしか食べられないものが必要。かつ足を運んで来てもらったときに必ず食べられるようにしないといけない。
- ・戦略的な観光素材を各地域で一つ決めて磨き上げる必要があるがそのためにも、具体的なガイドラインが必要となる。
- ・カツオ県民会議で一番反応が大きかったのが、「ゴシ、ゲジ」の存在。高知の鰹を県民は当たり前のように食べているが、実は美味しいカツオを食べるために流通段階でカツオの選別がされており、そこではじかれる「ゴシ、ゲジ」について、「なぜ、そんなカツオが獲れるのか。そのカツオの役割は何なのか。」など、食に対する好奇心が生まれた。そういった体験が食に対する好奇心につながる。このような作業が食の磨き上げに必要なようになってくるのではないか。
- ・食ではミシュランなどの評価があるが、高知には今のところない。ミシュランの三つ星は、わざわざ飛行機に乗って食べに行く価値のあるレストランとなっている。インバウンドの1つの到達点として目標になるのではないか。そのため例えば、ミシュランの星付き飲食店をつくるなどの目標を設定してみてもどうか。

#### (山脇観光振興部長)

- ・分かりやすいガイドラインは必須なので、取り組みたい。
- ・サステナブルという言葉が分かりにくいという議論は庁内でもある。旅行者に対しては、「地域貢献旅行」といった表現も検討している。土佐弁を使うことは考えていなかったが、地域や旅行者それぞれ言い方を変えることも検討する。
- ・食だけではなく、高知にしかない魅力を出して行きたい。
- ・今までは、ミシュランなどは目標としてこなかった。今後、目標に入れるか検討してみたい。

#### (天野部会長)

- ・高知県の1番のネックは旅行者に遠いと思われることである。実際飛行機を使えば近いが、陸路は遠いイメージがある。
- ・せっかく高知龍馬空港があるのに、活用できていない。
- ・飛行機は近いけど高いため手軽に利用できない。そのためLCCの誘致、国際空港化の取り組みが必要であるが、今は止まっている。そういう取り組みが必須となるのではないか。
- ・今後、インバウンド、万博に向けて整備する必要がある。まずは、来てもらわないと次に繋がらない。空港整備、LCCの誘致などについての現在のスケジュールをお聞きしたい。

#### (澤村国際観光課長)

- ・関西連携の取組みの中で関西からいかに高知県が近いかを発信することが重要と考えており、現在4つのモデルルートを作成していることから、それらも活用して発信していく。
- ・空港については整備計画が止まっているが、国際的な往来再開でチャーター便誘致での実績を積み上げて、需要が高まれば、次の段階として、施設整備などの議論に繋げていきたい。

#### (山脇観光振興部長)

- ・高知龍馬空港の国際化は予算を取ってやってきたが、コロナで一旦ゼロベースになっている。
- ・コロナ後の需要や費用の問題もある。まず、チャーター誘致などで実績を積み上げて、今後、国際化に繋げようとしているため、まずはチャーターに全力を挙げたい。意見はしっかり関係部局に伝える。
- ・LCCについては、他の航空会社に比べ更に条件がシビアで交渉が難しいが、以前から営業はかけており、今後、重要となってくることは認識している。現在も台湾のLCCとも話している。

#### (森部会員)

- ・船の寄港では宿泊や食事に繋がりにくいため、空港の整備等をぜひ進めてほしい。
- ・愛媛県や香川県はLCCを誘致している。愛媛県、香川県と連携して、高知に誘客することも必要ではないか。
- ・関西連携や四国内での連携状況はどうなっているのか。

#### (小西観光振興部副部長)

- ・直接海外から高知に入るルートはないが、高松に台湾、香港路線があるので、香川県と連携した旅行商品の造成や広報で連携してきた。
- ・高松空港から特に団体での周遊も一定あったので、今後、愛媛県も含めた連携をしながら

インバウンドの回復に努めたい。

- ・関西はコロナ後に早くに再開する主要空港になると思うので、関西エアポートとも連携して早期の誘客の取り組みに繋げたい。

#### (北古味部会員)

- ・県内在住外国人は約4千人であるが、コロナが収束すればもっと増えるのではないかと。半数がアジア圏であるが、SNSやネットの利用率が非常に高い。彼らをプロモーションツアーなど、観光地に案内し、発信してもらうことが重要ではないか。
- ・留学生は、お金がないので、ほとんど出て行かない。そこを県が支援してうまく活用することが大切。
- ・国内のベトナム人同士のコミュニティもあり、香川県でサッカー大会を開くと3千人も集まった。それぞれの国でアンケートを取り、好評だった観光地などを国ごとにデータ化していくことも重要であるとする。漁業も外国人の依存度が全国2位と高い。そのため漁も外国人がいないと成り立たない。
- ・スポーツツーリズムは結局はキーマンを通じたリピーター層。招聘した人は喜んでくれたが、プラスアルファが足りないとのこと。その足りないプラスアルファを紐解いていくなど、課題解決のために、昨年一般社団法人のスポーツコミッションを立ち上げた。
- ・今年の1月にVリーグチームが合宿に高知を訪れた。選んだ理由を聞くと、「田舎で人が少ない。公共交通機関の移動が少ない。施設の利用者も少ない。高齢者が多く感染対策が慎重である。」とのこと、コロナ対策の面で高知が適しているとのこと。
- ・マイナス面はアピールしにくいと思うが、自然環境など、高知の特性を活かしてアピールできる部分はあるのではないかと。
- ・自治体と地元住民がやりたい方向性に温度差がある。県がヒアリングするなどして、温度差を埋める取り組みが必要であると感じる。

#### (山脇観光振興部長)

- ・技能実習生をプロモーションに活用するのはいい案だと思う。移住にも繋がる。来年度のデジタルプロモーションは風景から人に焦点をあててシフトして行くことも検討中である。
- ・人口が少ないなどのネガティブなことをオープンにするのは難しいかもしれないが、営業ではできるかも。やり方を工夫してみたい。
- ・市町村の合宿誘致などのやり方におっしゃるような懸念もある。種目も限定的。大きい施設は埋まっているので、今年の夏にスポーツ課が各市町村にアンケートを実施したところ、新たな種目等も出てきた。アンケートに回答いただいた自治体とは個別にお話しできるようになってきた。市町村が地元の受入れとどのように調整しているかも確認しながら進めたい。

- ・ ウェルカムな環境がリピーターに繋がると思うのでスポーツ課にも話したい。

#### (古谷部会委員)

- ・ 2020年度よりも2021年度は厳しい。落ち着いたら需要が一気に増えると思うが、その際にホテル旅館業界での人手不足が課題となる。
- ・ 中心地の高知市でも人手不足。離職者も出始めている。また、若いメンバーにこの業界を受け継いでいくことも課題。
- ・ O T A が手数料率を上げるという話もある。全国的に厳しい状況での値上げは堪える。
- ・ 県として人手不足の対策をしているのかお聞きしたい。

#### (山脇観光振興部長)

- ・ 要望でも聞いているが、宿泊業界以外でも同様の課題があり、外国人材の活用に知事も意識をして取り組んでいる。
- ・ 宿泊業も特定技能実習生を受け入れられるようになったことから、観光振興部として宿泊業にも外国人材が活用できないか話をしている。ベトナム、インドから直接高知にといった取り組みも始まっている。
- ・ 組合とも話をしながら必要な人数、職種などの調査をしている。業種によって様々なルールがあるため十分に意思疎通を図りながら取り組んでいきたい。

#### (赤池部会員)

- ・ サステナブルツーリズムについて、若い学生に変化が見られる。
- ・ 旅行について、以前は、行ったことの無い場所に行きたいとのコト消費やモノ消費などが多かったが、今は、場所を問わず社会貢献したいという学生が増えている。
- ・ 外国人のニーズだけでなく、若い人たちにもニーズはあると感じている。ただお金がないから旅行に行けないという課題もある。
- ・ 貢献のニーズは高いが、高知の日常そのものがサステナブルという言い方は危険ではないか。田舎＝サステナブルと受け止められる恐れがある。社会貢献など、どういった体験がサステナブルか、認証のような基準を設ける必要がある。
- ・ 高知の生活が何でもかんでもサステナブルだと言っていると、そのうち見向きもされなくなる。モノ消費、コト消費で来られても、最後にサステナブルな部分を感じて帰っていただくなど、全ての層の方に感じてもらう事が重要である。
- ・ 台湾の6大学と連盟を発足した。2019年から地方創生といったテーマでの取り組みを行っている。高知の地方創生に興味があるのはダントツで観光。教育資源として課題が多いのかもしれないが、興味を持ってきているので活用できないか。
- ・ 台湾の学生を広域などでインターンシップを受け入れる環境ができればニーズはあると思う。

**(山脇観光振興部長)**

- ・インバウンドを進めるため、今後、インターンシップも検討したい。
- ・おっしゃるとおり「日常ありのまま」という表現は危険性もあるが、入口の段階として高知県にはそういった素材が多くあるという意味を込めている。
- ・時間はかかるが段階を踏んで、地域の方がこういったものがサステナブルであるとしっかり発信ができ、観光客が理解していただくという両方を目指し、ガイドラインを作るなど進めていきたい。

**(古谷部会員)**

- ・台湾のインターンシップは土佐清水がやっているが、高知市にも働きかけたい。

**(町田部会員)**

- ・私はUターンして10年になる。運転免許を持っておらず、移動は公共交通機関となっている。その経験から、公共交通だけでは行けない場所も多いので、タクシーの定額プランなども将来的に検討されても良いのではないかな。
- ・地域でも1時間かけて数千円の商品を納品のために配達されている事業者もいらっしゃる。
- ・県内の高齢者の免許返納への対応や、観光客のためにも二次交通の整備を進めてほしい。

**(山脇観光振興部長)**

- ・他部局ではあるが、貨客混載、スクールバスの一般利用、作物等の輸送などの検討をしてくている。
- ・公共交通機関だけでなく、観光客の利用をいかに有効に組み合わせるか関係部局と話をしたい。

**(渡部部会員)**

- ・文化はアイデンティティを確認し、独自性を作る分野であり、ここにしかないものを作るのを得意としている。そういった視点から観光に貢献できるのではと考えている。そのため観光と意識を共有することが大切。
- ・地域観光課とも毎年「リョーマの休日」の関係で県内でイベントを行うが歴史に特化してしまっている。しかし、自然や芸術部門の施設でも独自性を発揮している。そういった分野に拡大することも必要である。
- ・ミュージアムネットワークと全国博物館協会が連携して、今年の11月に全国大会を高知で開く。このような取り組みをアピールしたい。
- ・博物館法の改正で文化庁が文化施設の広域連合化を四国単位や中四国単位で考えている。

- ・サステナブルについて、何となく分かるが難しい。文化に何を求めるのか概念の具体化があれば分かりやすい。
- ・今の大河ドラマでは、高知も関わっている。山内家の祖先や土佐ゆかりの人物が出てくる。それらを絡めることができるのではないか。来年の徳川家康も高知と関連がある。色々と情報提供していきたい。

#### (山脇観光振興部長)

- ・大河ドラマの話は改めて教えていただきたい。
- ・博物館協会の全国大会（11月）でもぜひ連携をさせていただきたい。
- ・サステナブルの言葉をかみ砕いてガイドラインを作成したい。

#### (黒笹部会員)

- ・「何が文化か、何がサステナブルか。」といった際に、一例を思い出した。
- ・NHKの方で熱中塾で授業をお願いしたが、その方が仁淀川の美しさと、仁淀川に下りたいと感じるポイントに必ずハシゴがあるのは、素晴らしいと言っていた。川と地元住民が密接に関わっている証拠だと思うが、それも高知の強み。夏休みの観光に繋がる。
- ・こういったところが昔からの文化的な強みではないか。
- ・こういった情報を外に出すことができるのではないか。私自身も今まで気付いてなかったと言われてみればたしかにと思う。ハシゴの数を調べるなどしても面白いと思う。
- ・サステナブルツーリズムの切り口としては産業観光もある。林業では、大豊町の製材工場があるが、木材の製造工程を見れば1日いても飽きない。漁業では、養殖業や定置網などもポテンシャルがある。観光で使っていけるのでは。
- ・公共交通の不足を補っているのがレンタカー事業。レンタカー関係のデータはないのか。
- ・DMVは高知の人は興味を示さなかったが、走り出せば話題になった。
- ・高知県のレンタカーでマイナスをプラスに変えることができるのは、キャンピングカーである。キャンピングカーのレンタルを考えてはどうか。現在、高知でそのようなレンタルがないので、大手が空港や高知駅に用意できたら観光の大きなPRになるのではないか。
- ・キャンピングカーが並べば、高知はキャンプの聖地、行ってみたいと感じる人が出てくる。そのようなちょっとした気づきを業界と連携しながら進めていくべきではないか。

#### (山脇観光振興部長)

- ・レンタカー事業者との関係は昔から比べるとやりとりできる関係性となっている。
- ・レンタカーの利用は、コロナ禍でもあまり落ち込んでないと聞いている。
- ・高知は目に見えて、はじめて本気になる県民性もあるので、キャンピングカーのレンタルは今後検討したい。
- ・仁淀川のハシゴについては、メディア等を活用して数を数える企画等を実施しても面白い

かもしれない。

**(樋口部会員)**

- ・路面電車について、現在、ビジネス的にはかなり赤字だが、話にもあったように収支では計れない価値がある。なんとしても維持していきたい。
- ・これまで、公共交通は全般に右肩下がりだが、路面電車については観光等交流人口のおかげもあり、ここ数年は横ばいできていた。今後も応援いただきたい。
- ・目標値でR4はH30以上を掲げていることは関係事業者にとって心強い。
- ・観光バスなどは、非常に厳しい状況であるが、県を挙げて目標達成に向けて動いてくれるのは、励みになる。
- ・旅行の少人数化もあるかと思うが、一緒に連携して取り組みをさせていただきたい。
- ・サステナブルがキーポイントであると思うが、やはりガイドラインが欲しい。
- ・サステナブルな宿泊施設とはどういうイメージか教えていただきたい。
- ・「サステナブル」と併せて、「面白いことがありそう。かっこいい。満足できそう。好奇心を満たされそう。」など感覚に訴えるものがプラスアルファとしてイメージが湧くものがプロモーションに必要ではないかと考える。

**(山脇観光振興部長)**

- ・サステナブルな宿泊施設について、我々が考えるのは、一例としてオーベルジュなどのように地域の食材を使った料理を出し、宿泊することで地域が潤う施設。地域の木材を使った施設など地域に貢献・還元できる宿泊施設などではないかと考えている。
- ・旅行者の気持ちを捉えた部分の視点についても継続してやっていきたい。

**(鈴木観光政策課長)**

- ・地産地消、フードロス、環境面でいうと、使い捨ての歯ブラシを再利用できる物とするなど環境、経済、地域の文化を意識したものと聞いている。

(以上)